

東日本大震災による福島第一原子力発電所1～4号機事故の収束に向けた対応状況 (2011.06.06.12:00現在) (公開情報を基に原産協会とりまとめ)

基本情報		1号機	2号機	3号機	4号機	備考	
被災時の状況	炉型	BWR-3	BWR-3	BWR-4	BWR-4		
	電気出力/熱出力(MW)	460/1380	784/2381	784/2381	784/2381		
	運転状態	運転中⇒自動停止	運転中⇒自動停止	運転中⇒自動停止	定検中		
	原子炉燃料体数	400	548	548	0		
	使用済燃料プール内使用済燃料貯蔵数	292	587	514	1331		
原子炉冷却	外部電源	地震により喪失					
	非常用電源	外部電源喪失とともに非常用ディーゼル発電機が自動起動したが、津波により停止し、全交流電源が喪失					
	炉心燃料健全性	炉心損傷(溶融*1)	炉心損傷(溶融*1)	炉心損傷(溶融*1)	燃料なし		
	原子炉圧力容器構造健全性	限定的な損傷・漏えい	不明	不明	健全		
	原子炉格納容器構造健全性	損傷・漏洩の疑いあり	損傷・漏洩の疑いあり	損傷・漏洩の疑いあり	健全		
	炉心冷却機能	機能喪失	機能喪失	機能喪失	必要とせず		
	STEP1(4～6月)目標	安定的な冷却(滞留水再利用による循環注水冷却)					
	最小限の注水による燃料冷却	給水系配管から淡水注入中 5m3/h	給水系配管から淡水注入中 5m3/h	給水系配管から淡水注入中 11.5m3/h	—	1～3号機合計:21.5m3/h (5/31現在)	
	循環注水冷却の確立	注入ライン工事中	注入ライン工事中[4/9～]	注入ライン工事中[4/16～]	—		
	窒素充填(水素爆発防止)	実施中(4/6～)	注入ライン工事中[4/16～]	注入ライン工事中[4/16～]	—		
課題	漏洩箇所の密閉後、格納容器冠水	検討中	検討中	検討中	—		
	熱交換機能の確保	工事中[5/13～]	熱交換器製作中 作業環境改善の後、工事着手予定	熱交換器製作中 作業環境改善の後、工事着手予定	—		
	作業環境の改善	各号機建屋内の放射線レベルが高く、作業の障害となっていることから、瓦礫撤去、線量確認等を実施中。2号機では原子炉建屋内の湿度が高くて作業の障害となっていることから、使用済燃料プールを冷却することにより湿度の低下を期待。					
プ使用済燃料冷却	使用済燃料の健全性	不明	不明	不明	大きな損傷なしと推定*2		
	使用済燃料プールの冷却機能	機能喪失	機能喪失	機能喪失	機能喪失		
	STEP1(4～6月)目標	安定的に冷却できる状態にする					
滞留水	注水操作の信頼性向上	燃料プール冷却浄化系を用いた淡水注入実施中	燃料プール冷却浄化系を用いた淡水注入から循環運転へ切り替え	燃料プール冷却浄化系を用いた淡水注入実施中	ポンプ車にて淡水放水実施中 燃料プール冷却浄化系を用いた注入のための工事着手	ヒドラジン(腐食防止剤)を併せて注入(5/9～)	
	熱交換器による循環冷却	検討中	運転開始	検討中	検討中		
	現状	放射性汚染水の滞留、増加 各号機の原子炉、タービン、廃棄物処理建屋、トレンチ内に、高濃度の放射性物質を含む汚染水が滞留、増加中 (約92,000m3[5/31])					
地下水	STEP1(4～6月)目標	高レベル汚染水の保管場所を確保					
	保管場所の確保	・集中廃棄物処理建屋(プロセス主建屋(移送予定量:約10,000m3)及び高温焼却炉建屋(移送予定量:約4,800m3)内の止水確認。 ・地下防災タンク(高レベル用:約10,000m3)を8月中旬に設置予定。 ・放射能処理した水(中低レベル放射性汚染水)貯蔵用タンク設置 約13,000m3[5/31]、6月末以降20,000m3/月を順次設置予定					
	汚染水の移送	・2号機高レベル放射性汚染水:トレンチ立坑⇒プロセス主建屋(4/19～5/26、約9,600m3)、移送を一旦中断し、建屋貯水レベル変更後再開[6/4～] ・3号機高レベル放射性汚染水:タービン建屋⇒高温焼却炉建屋(5/17～5/25、約3,700m3)。漏えい可能性のため現在移送中断中。					
	処理施設の設置	・放射能処理装置設置工事中。6月15日処理開始予定(定格:1,200m3/日)。 ・放射能処理した水を淡水化処理(6月中旬以降:480m3/日。その後、順次増量予定。)し、原子炉注水に再利用する予定。					
	海洋汚染拡大防止など	・取水槽にシルトフェンス設置済み。・循環型浄化装置装置の設置工事開始[5/30] ・タービントレンチ立坑閉鎖完了(6/2)。ビット閉塞作業中。					
大気・土壌での放射	現状	施設外への放射性物質の放散 原子炉建屋健全性					
	STEP1(4～6月)目標	建屋/敷地にある放射性物質の飛散を防止					
	飛散防止剤の散布	建屋周辺に散布中[4/26から本格散布]。原子炉及びタービン建屋本体に散布開始[5/27～]。					
補強ほか	現状	瓦礫の撤去 遠隔操作重機を用いた瓦礫撤去を実施中[4/10～]					
	STEP1(4～6月)目標	災害の拡大防止					
	津波対策	・高台に非常用仮設電源移動[4/15]、注水ラインの多重化[4/15]、高台に消防車等設置[4/18] ・仮設防潮堤の設置計画[6月末目途]					
滞留水	原子炉水位(mm)[6/5 11:00]	A:ダウンスケール、B:-1600 指示ほぼ一定	A:-1500、B:-2100 指示ほぼ一定	A:-1850、B:-2100 指示ほぼ一定	—	■"A"、"B"は、多重化された計器の系統を表す。	
	原子炉圧力(MPa)[6/5 11:00]	A:0.025、B:- 仮設計器設置、測定開始[6/4]	ほぼ一定、状況推移を継続確認中	ほぼ一定、状況推移を継続確認中	—	■原子炉水位は、燃料頂部から左記水位が冠水していない。	
	原子炉圧力容器温度(給水ノズル温度)[6/5 11:00]	115.1℃ ほぼ一定、状況推移を継続確認中	109.7℃ ほぼ一定	128.3℃ 微増傾向、状況推移を継続確認中	—	■トレンドは、日本原子力技術協会HPを参照: http://www.gengikyo.jp/report/pdf/1Fparameter.pdf	
	原子炉圧力容器温度(圧力容器下部温度)[6/5 11:00]	98.8℃ ほぼ一定	107.4℃ 計器不良	170.6℃ 微増傾向	—		
	格納容器ドライウエル圧力(MPa)[6/5 11:00]	0.1301 ほぼ一定	0.025 ほぼ一定	0.0989 ほぼ一定	—		
	格納容器内圧抑制室圧力(MPa)[6/5 11:00]	0.110 ほぼ一定	ダウンスケール 計器不良	0.1803 ほぼ一定	—		
	プール	使用済燃料プール水温					
	原子炉建屋地下滞留水	量*3	3,900m3[5/31]	6,000m3[5/31]	6,400m3[5/31]	6,500m3[5/31]	
	放射線物質濃度*3	4.0E+5Bq/cm3	1.9E+7Bq/cm3	3.8E+5Bq/cm3	2.0E+5Bq/cm3		
	タービン建屋地下滞留水	量*3	8,400m3[5/31]	11,400m3[5/31]	13,600m3[5/31]	11,800m3[5/31]	
放射線物質濃度*3(水表面線量率)	4.0E+5Bq/cm3 (60mSv/h[4/28])	1.9E+7Bq/cm3 (1,000mSv/h以上[3/28])	3.8E+5Bq/cm3 (120～750mSv/h[3/24,4/22])	2.0E+5Bq/cm3 (4.5mSv/h[4/21])			
廃棄物処理建屋地下滞留水	量*3	1,100m3[5/31]	2,400m3[5/31]	2,300m3[5/31]	3,700m3[5/31]		
放射線物質濃度*3	4.0E+5Bq/cm3	1.9E+7Bq/cm3	3.8E+5Bq/cm3	2.0E+5Bq/cm3			
トレンチ滞留水	量	2,800m3[5/31]	4,800m3[5/31]	5,800m3[5/31]	900m3[5/31]		
放射線物質濃度*3(水表面線量率)	6.9Bq/cm3 (0.4mSv/h[3/27])	1.1E+7Bq/cm3 (1,000mSv/h以上[3/27])	2.4E+5Bq/cm3	2.0E+5Bq/cm3			
合計水量	91,800m3(集中廃棄物処理建屋の滞留水を含めると約105,000m3)						
発電所付近の環境影響		●空間線量率:敷地境界にて5～122μSv/h(モニタリングポスト) 事務本館南:371μSv/h 西門:15μSv/h [いずれも6/01 09:00現在] ●これまでに発電所敷地内の土壌から、微量のプルトニウム[3/28発表]、アメリシウム、キュリウム[4/27発表]、ストロンチウム[4/18採取、5/8発表]を検出。 ●福島第一原子力発電所周辺の地下水及び海水から放射性物質が検出され続けており、監視強化中[4/16～]。				空間線量率: http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/index-j.html 空気、海水、地下水、土壌ほか: http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/index2-j.html	
作業員被ばく状況		●100mSvを超過した作業員は、計30名[5/30現在] ●運転員2名については、甲状腺の体内放射線量(ヨウ素131)が高いことが判明、2名の被ばく線量は200mSv～580mSv程度と評価[6/3東電発表]。 ※原子力緊急事態の期間中、緊急事態応急対策実施区域において、特にやむを得ない緊急の場合の線量限度を250mSvと規定。					

*1 東京電力解析結果[5/15,23発表]
*2 東京電力は、4号機使用済燃料プールの放射性物質濃度、映像より、大きな損傷はないと推定[4/13,28,29]
*3 東京電力の計測又は推定による概算値[5/31発表]

[情報源] 政府緊急対策本部発表(<http://www.kantei.go.jp/saigai/index.html>)
原子力安全・保安院発表(<http://www.nisa.meti.go.jp>)
東京電力発表(<http://www.tepco.co.jp/nu/index-j.html>)

[重要度](原産協会の評価)
 :低
 :高
 :深刻(緊急対応要)

[対策の進捗状況]
 :対策工事済み
 :対策工事中
 :対策工事未着手(含検討中、機器製作中)